

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

事業所名: きらりは一と浦添校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	2	広く使うため体操用具等は適時片付け、机も折りたたみ式で用途に応じて設置している。	
	2	職員の配置数は適切である	4	1	送迎時には、その時に対応できる支援を行っている。	送迎へ出るため、その時に対応できる方法へ変更した。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	2	3		階段でしか上れない所がある。上り下り困難な利用児がいないため、改善予定なし。訓練室では広く使えるよう段差や死角を作らないようにしている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5		アルコール消毒を徹底し、感染症予防に努めている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	2	MTGで目標を話し合い、週に一度振り返りを行い評価している。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	2		アンケート内容を職員で話し合い、改善につなげていこうと思う。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5			公開予定。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	4		評価は行っていないが、好評の言葉は頂いた。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	2	定期的に職員研修(体操補助練習など)を行っている。	専門性を高めるために、職員での講習も始めていきたい。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4	1	職員全体で話し、計画を立てている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	2	事業所と家庭で連携して、利用時のアセスメントを行っている。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5		児童発達支援計画には、現在の状況に沿った発達支援(体操面・社会面)等の項目を入れており、「家族支援」「地域支援」の項目を追加した。	「家族支援」「地域支援」などの項目追加を検討している。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5		児童発達支援計画に沿った支援法を行い、個別に体操の支援を行っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	1	職員間で連携し、療育活動の共有化を図っている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	1	週ごとに発展していくようなプランを組み立てている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し	5		個別での支援と集団活動を取り入れている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確	4	1	毎朝ミーティングにて実施している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		当日の出来事や明日の連絡事項など、毎日確認している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		毎日記録をつけており、次のベースアップへ繋げている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5		半年ごとにモニタリングを行い、支援プランの見直しをしている。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5		児発管が出席しているが、全職員が対応できる体制をとっている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3	2		保育園や幼稚園、相談支援事業所などと情報共有や相談、報告を行い、適切な支援を行えるよう努めている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			協力医療機関を設けている。	現在該当する利用児がいないため、受け入れの際には連絡体制を整えていく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			協力医療機関を設けている。	現在該当する利用児がいないため、受け入れの際には連絡体制を整えていく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	1	送迎時や会議で利用児の情報共有を図っており、支援内容の相互理解し務めている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	1		新年度へ向けて現在携わっている学校との相談は行えているが、新規での学校では相談事業所を通して情報を得ることが多いため、事業所からも発信していく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	3		今後も関係性を作り、助言を頂けるようにしていきたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	4		現在交流の機会がないため、地域交流のイベントなどを増やしていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	3		参加できるよう計画していきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		送迎時に日頃の情報を共有し、共通理解を行っている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	1	4		定期的に保護者会を開き、講演やペアトレなど企画していく。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		契約時に、保護者と確認し合いながら行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5		職員間でミーティングをして支援計画を作成しており、「児童発達支援計画」を保護者と確認・同意をいただいている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	1	講演会のお知らせや、個別に子育てについての相談を行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	4		定期的に保護者会を開き、情報交換の機会を作っていきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4	1	即対応を心掛け、職員間でも共通認識として話し合いを設けている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		毎月カリキュラムの予定をお知らせしている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5		個人情報私用同意書を確認し、写真掲載に関しても慎重に行っている。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5		個別に対応しており、個に合った対応をするよう心掛けている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	3		地域と交流する機会が年に数回しかない(ハロウィンなど)ため、増やしていきたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	3	2		職員間での共有はできているが、保護者まできちんと伝えることができていないので、保護者に対しての周知も行っていきたい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2	3		数回行っているが、利用児の認識付けもできるよう進めていきたい。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	3	2	契約時に利用児の状態をアセスメントツールにて把握し、職員全体で周知している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	4	保護者と連携し、完全除去で対応している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	1	ヒヤリと思う事態があると作成し、職員で周知している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	1	4		研修に参加する機会を作っていく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	2	やむを得ない(利用児の危険に関わる)身体拘束等、職員間で周知徹底し、家族にその旨を伝えている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。